自治体防災情報システム

- 定義
  - GISを基盤とした情報システム
  - 防災行政無線を軸とした通信システム
- 現状
  - 開発単位
    - 都道府県
    - 市町村
    - 全国統一基盤はない
  - 構成
    - サーバー
      - クラウド
      - オンプレ
      - ハイブリッド
    - 通信
      - インターネット
      - 独自通信
        - IP化された防災無線も活用
    - 利用者
      - 都道府県職員
      - 市町村職員
      - 消防等関係団体
      - 医療機関・福祉施設
        - 別システムも多い
    - 端末
      - セキュリティ
        - 制限あり
          - 指定端末
        - 制限なし
          - マルチデバイス
            - PC
            - タブレット
            - スマホ
  - データ
    - 手動入力
      - 配備体制
      - 庁舎被害
      - 避難所開設
      - L-Alert発出
        - 避難指示
        - 高齢者等避難
    - システム連携
      - 起動
        - 気象・地震情報
          - 閾値を超えるとシステム起動
            - 気象警報
            - 震度情報
            - 津波注意報
      - 発信
        - L-Alert
        - 緊急速報メール
        - EMIS
          - 医療機関の動的情報
          - 県内医療機関
      - 収集
        - JAXA
          - 衛星画像
        - Our Open Data
          - ソース
            - 県土防災情報システム
          - 道路通行規制
          - 河川水位
            - 10分・時間・累積
          - 雨量
            - 10分・時間・累積
          - ダム水位
      - 相互利用
        - セブンイレブンから
          - コンビニの店舗情報
            - 停電
            - 通信途絶
            - バッテリー稼働
            - 等々
          - 四国内のみ
        - 県から
          - 道路通行規制
          - 河川水位
          - 雨量
          - 庁舎被害
          - METHANE
          - 避難情報
          - 避難所情報
          - 避難場所情報
  - 公開範囲
    - 一般公開
    - 限定公開
      - 関係者のみ
- 課題
  - 開発単位
    - 県単位
      - 情報ソースの分断
      - 他県の情報を十分得られる基盤が少ない
    - 広域災害
      - 被災地支援
        - 情報収集が難しい
        - 二重収集となる
      - 被災地側
        - 対応の負担増
    - 企業側システム
      - コンビニ
        - 全国システムを整備
          - 通常運営に活用
        - セブンイレブン
        - ローソン
    - 利用頻度の低さ
      - 他システム
        - 習熟が難しい
        - 操作体系が一貫していない
      - 県単位
        - 10数年～数十年に一度
        - システム更新までに使うことはあるか？
      - 市町村
        - 数十年に一度
  - 構成
    - 端末
      - 限定
        - 活動範囲の増大に対応できるか？
      - マルチ
        - 接続負荷に耐えられるか？
    - 自治体毎の開発
      - セキュリティレベル
      - 耐災害性
        - 特にオンプレ
        - 長期停電は3日程度
    - 通信途絶時
      - オフライン入力可能
      - 入力不可
  - 利用者
    - 主に防災関係
      - 別システム多い
        - 保健医療
        - 県土防災
    - 他システムとの連携
      - 気象庁
      - 保健医療福祉
      - 県土整備
  - データ
    - 何に活用するか？
      - 一般的な被害情報
        - Information
          - 生情報
          - 何に使う？
      - METHANE Report
        - M
          - Major Incident
          - My Call-Sign
        - E
          - Exact Location
        - T
          - Type of Incident
        - H
          - Hazards
        - A
          - Access
        - N
          - Number and Severity of casualties
        - E
          - Emergency Service
      - 進捗管理までカバー？
        - 少ない
        - 職員が使いこなせない
    - システム間の連携
      - 個別に行っている
      - 標準基盤
        - SIP4D
          - 十分認知されず
  - 情報ソース
    - 充実
      - 発信される情報が高度化
        - 多すぎて整理できない
      - 気象庁
        - キキクル
      - 国交省
        - DiMAPS
        - 川の防災情報
      - 等々
    - 様々な規格
      - 国レベルで統一化の動き
        - 避難所の統一番号
      - 地図
        - 共通化が必要
          - UTMグリッド
  - 用途
    - Information
    - Intelligence
      - キキクル
        - 昇華されてない
        - 明確に伝え始めている
        - トリガーになっているか？
    - 何に使うのか？
      - 報告システム?
        - 報告
        - 情報共有
      - 災害対応システム？
        - 事態把握
        - 事態対応
      - コンセンサスが不十分
        - 入力が目的化してないか？